

第1回 市民ワークショップ

「将来の鬼無里をどんな地域にしたいか」

をテーマにグループ作業を行いました

11月17日(土)鬼無里活性化センターで「地区の公共施設について考える」市民ワークショップを開催しました。

長野市や鬼無里地区の公共施設の現状や課題などの説明や、今回のワークショップに参加する信州大学工学部佐倉研究室の学生のみなさんから、旧中学校など事前に視察した地区内の主な施設の発見した魅力・改善点・提案等の発表を聞いたあと、地元の方35人のメンバーと学生のみなさんでグループワークを行いました。

各グループで「こんな鬼無里をつくりたい」「将来の地区のために必要な施設」をふせんに書いて討議し、そのまとめを発表していただきました。

最初は遠慮がちだった方も、時間が進むにつれ、打ち解けて、討議も盛り上がりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



グループ作業の様子 熱心に話し合っていました

今後の予定		内容(予定)	会場
第2回	12月15日(土) 14:00-16:00	◇グループ討議 テーマ ～鬼無里の公共施設の課題と、その解決方法を考える～	鬼無里活性化センター (2階会議室)
最終回	平成31年 1月26日(土) 9:30-12:00	◇グループ討議 テーマ ～鬼無里の公共施設の将来像を考える～ ◇発表、まとめ	

◇途中からの参加も可能なワークショップです。見学のみも大歓迎！事前申し込み不要です。ぜひ会場にお越しください。

◇長野市公式ホームページ
「公共施設マネジメント推進課」に
当日の資料などを
掲載していますので、
ご覧ください。



【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進課

電話:224-7592

鬼無里支所

電話:256-2211



《ワークショップの目的》

公共施設マネジメントの考え方にご理解いただくとともに、公共施設見直しの計画策定前の段階から、市民の皆さまと市と一緒に考える地域の公共施設に関する試みです。

人口減少時代の中、地域の賑わいや活力あるまちづくりにつながる施設の集約化、多世代交流を生み出す複合化・多機能化など、様々なアイデアを公共施設再配置計画の参考にしたいと考えています。



各グループの発表の一部を紹介します


【◇鬼無里の将来、こんな地区を作りたい】【○将来の鬼無里のために必要な施設はなんだろう】

- ◇今ある施設で十分に幸せを感じる鬼無里 ※ 作りたい地区、 必要な施設
- 空き家でカフェ・郷土料理の提供、公共住宅を一人暮らしの老人に格安で賃貸、デイサービスセンターを移住した方の就職先として活用、旧中学校をIT教育・森林保育等に活用
- ◇自然との共生
- 道の駅周辺・ふるさと資料館をビジターセンター（機能）として活用、ふっどうっど・ふるさとの館を観光・交流拠点（機能）として活用、市営住宅の入居条件緩和、活性化センターでジビエ・鬼無里そば・郷土料理を提供
- ◇鬼無里に住み続ける
- 生活必需品を一括して提供するシステムや施設、高齢者向けシェアハウス、伝統文化の保存・伝承等に資料館を活用、働く場所、鬼無里でしかできない特色ある教育の場
- ◇健康寿命が長い地区・若い人を含め交流が活発な地区・人が多く集えにぎやかな地区 など
- 活用されていない施設で健康マージャン、交流の場として保育園・学校・ふっどうっどの活用、移住体験できる施設、市営住宅を移住者向けに開放、誰もが自由に出入りできる施設
- ◇住みたいなあ鬼無里
- 旧中学校等を農業体験・市街地の大学生誘致・鬼無里PR等に活用、市営住宅・教員住宅を短期用として利用、資料館の積極的活用、人のつながり（子供からお年寄りまで）
- ◇じわっとハマっていく鬼無里
- 農業体験型施設、高齢者のシェアハウス、ふっどうっど+アスレチック、自転車・バイクツーリング施設、移住者受入れや親子山村留学等のための住宅

参加者アンケートから

- ◆今までの鬼無里がよいという事に感心した
- ◆共通して“鬼無里の良さ”を生かして、人を増やしていければとの思いを感じた。そのための施設の有効活用や交通の確保など課題も共通で出されたと思う
- ◆話すにつれてたくさん意見が出てきてワークショップの面白さを感じた
- ◆いろんな意見が出てよかった。信大生の意見は、中々するどく参考になった など

アドバイザーの佐倉弘祐先生(信州大学工学部助教)のコメントを紹介します

- 
- ・公共施設再編のワークショップということで新しいものが欲しいという意見が多いと思ったが、今の鬼無里を残したいという意見が多く、そこが本地区の特徴であると感じた。
 - ・人口減少を逆にポジティブにとらえることはできないか。その中で、もし若い人を取り込むことができれば、そのインパクトは大きい。
 - ・今後、人口が減少していく中で、生き残る地域というのは、地域に愛着を持っている住民がどれだけいるかどうか。そういう意味で、鬼無里の未来は明るい。